

一帯一路と南アジア地域の政治経済

The Belt and Road Initiative and the Political Economy of South Asia

深澤光樹（東洋大学助教）

南アジア地域は中国の陸と海のシルクロードによって囲まれており、同地域における中国のプレゼンスは近年ますます高まっている。中国は現代南アジア政治経済関係の当事者となり、一帯一路は南アジア地域に多大な影響を及ぼしている。本稿は南アジア諸国と中国の政治経済関係の変遷をおさえ、南アジア地域における一帯一路の実態を把握することを目的としている。印中間、インド周辺諸国と中国の政治経済関係を素描し、現代南アジア地域における一帯一路の意義を確認する。

南アジア地域における一帯一路構想を考察する際には、インドとパキスタンやバングラデシュ、ブータン、ネパール、スリランカ、モルディブなど周辺諸国が置かれる状況は大きく異なることに注意する必要がある。

インドは一帯一路構想から恩恵を得ている。インドはアジアインフラ投資銀行（Asian Infrastructure Investment Bank: AIIB）や（New Development Bank: NDB）から融資を受け、また中国企業から投資を積極的に受け入れている。インドと中国の関係は多国間の枠組みでも緊密化している。インドは上海協力機構（Shanghai Cooperation Organization: SCO）や BRICs 首脳会議に参加し、気候変動枠組条約第 15 回締約国会議（COP15）においても中国と足並みを揃えている。しかし、インドは一帯一路を公式に認めることはなく、南アジア地域における中国の影響力拡大に警戒している。これは広く南アジア地域における中心性に関わる問題を孕んでいるからである。インドは中国との QUAD 2.0（Quadrilateral Security Dialogue 2.0）という多国間協力体制のもとでアメリカ、日本、オーストラリアと中国包囲網を形成することで、南アジア地域における中心性を高めようとしている。

インド周辺諸国の一帯一路への対応についてみると、インド同様に中国の経済力を積極的に利用していることがわかる。また、インド周辺諸国は中国に接近することで、大国インドからの影響を緩和させ、バランスを取ろうとしている。パキスタンの中国パキスタン経済回廊（China-Pakistan Economic Corridor: CPEC）、スリランカのハンバントタ港開発に代表されるように、両国は一帯一路で重要な位置づけられることで、経済成長の足掛かりを得ている。その他の南アジア周辺諸国においても、中国の政治的経済的影響が及んでいる。中国の影響力拡大に呼応して、インドはインド周辺諸国との政治経済関係の強化に動いており、これによりインド周辺諸国は中国とインド両国から経済的支援を引き出すことができる。